

サッカー教室 FC化

ゼンシン、障害児向け

障害者福祉事業などを手掛けるゼンシン(宮城県名取市)は、発達障害などがある児童向けサッカー教室のフランチャイブチェーン(FC)展開に乗り出す。放課後に児童らが通う「放課後等デイサービス」などを手がける施設が対象。まず2023年までに70施設のFC化を目標とし、収益力の底上げを図る。

同社は障害児向けサッカー教室「アバンツァーレスポーツ」を宮城県と山形県を中心に6カ所で展開している。放課後等デイサービス事業の一環で生徒数は約200人。身体能力の向上に加え、児童の社会適応を後押しするのを目的とする。

FC契約を結んだ施設は児童1人500円、1施設あたり最大10万円を毎月ゼンシンに支払い、サッカーの指導法や児童との接し方のノウハウに関する研修などを受け、元サッカー日本代表で仙台大学に所属する平山相太氏も練習などに参加し、取り組みを支援する。

指導時は「蹴る」などの運動能力と「選ぶ」といった社会性について、それぞれ6項目を設けて段階分けし、児童一人ひとりの特徴を把握する。FC化で2000人分のデータ収集を目指し、カ

23年までに70施設目標

データ収集、指導に活用

リキユラムや指導方法の改善に役立てる。

東北大学の本郷一夫名誉教授(発達心理学)らと協力し、サッカー教室運営を通じた障害児の運動能力と社会性の発達の相関について研究を進める。本郷名誉教授は「運動能力と社会性の発達は相互に関連している。どのような指導をすればより発達を促せるか、見いだしていきたい」という。

現在6カ所ある直営の障害児向けサッカー教室も、25年までに30施設に増やす計画だ。20年度は約1億7000万円だった売上高を、FC展開などで25年度には14億円まで増やしたい考え。26年の新規株式公開を目指している。

ゼンシンは障害児向け以外にもサッカー教室を展開。就労支援などの障害福祉サービスも手がけている。20年には東北経済産業局のスタートアップ支援事業「J-Startup TOHOKU」に選ばれた。



ゼンシンは障害のある子供の運動能力と社会性の発達の相関について研究を進めている(宮城県名取市)